

『哲学の探求』第34号刊行にあたって

本書は、哲学若手研究者フォーラムの、2006年度における活動の成果として編まれた論文集です。第34号を数える今号には、2006年7月22, 23日、東京代々木の国立オリンピック記念青少年総合センターにて行なわれた同フォーラムの、テーマレクチャー「大陸系哲学」の現在」にてご講演くださった古荘真敬（山口大学）、村上靖彦（日本大学）各氏の論文、ならびに個人研究発表に基づく諸論文を中心に、力のこもった論考が多数収録されています。

哲学若手研究者フォーラム（略して若手フォーラム、旧名称は全国若手哲学研究者ゼミナール）とは、大学や専門分野の枠を超えて全国各地から集った、大学院生を中心に学部生やオーバードクター以上の方々で構成される哲学徒たちによって行なわれる、年一回開催の哲学研究集会です。フォーラムは7月後半に東京にて開催されるのが通例ですが、近年ではそれに加えて冬季セッション開催の機運も高まりつつあり、昨年3月には名古屋の南山大学での開催が実現しました。本書には、その際のシンポジウム「生命の哲学」でのご講演に基づいた、横山輝雄氏（南山大学）の論文も収録されています。

若手フォーラムは例年、宿泊施設付きの施設にて一泊二日の日程で開催され、テーマに沿って大学教員の方々を招いて行なわれる「テーマレクチャー」、事前に応募した参加者が自身の日頃の研鑽の成果を発表する「個人研究発表」を軸に構成されています。学会等と比べて時間設定に余裕を持たせ、存分に意見を交わせる談論風発の発表空間が特色で、若手フォーラムは従来から多くの若手哲学研究者の登竜門的存在であり、研究への新たな相互触発の場でもありつけてきました。また、宿泊が含まれることから、一日目の夕刻以降は、懇親会や、参加者有志で行なわれる二次会などを通じて、広く哲学を志す者同士が邂逅・交流する場としても、若手フォーラムにはその特異な存在価値が見込まれているように思われます。

こうした雰囲気は、主に参加者からの参加費収入に基づく自主運営の姿勢、ならびに、フォーラム時に参加者から承認された有志参加者が「世話人」として従事している手作りの事務作業に支えられたものでもあります。

2007年の若手フォーラムは、7月21,22(土日)の両日に、前年同様、国立オリンピック記念青少年総合センターにて開催されます。テーマレクチャーでは「分析哲学における存在論の現在」というテーマで伊佐敷隆弘(宮崎大学)、柏端達也(千葉大学)、加地大介(埼玉大学)の三氏を招いたセッションを行なうほか、個人研究発表も行なわれます(レクチャー要旨、個人発表情報ほか詳細は本書141-151ページ、ならびにホームページ<http://www.wakate-forum.org/>をご参照ください)。常連の方もそうでない方も、哲学することの喜びをすでに知っている方もこれから味わってみたい方も、若手フォーラムは広くご参加をお待ちしております。とりわけ、修士課程の大学院生や学部生といった、清新な思考と意欲を携えた若人の参加(とそれを促す諸先輩方の働きかけ)を大いに歓迎します。

人文系専門書の刊行状況は厳しくなるばかりと囁かれる中、こうして論集を刊行できることは、一若手哲学徒にとっても望外の喜びです。最後になりましたが、渾身の論考をお寄せくださった執筆者の皆様方はもちろん、編集作業をはじめ顧みられることの少ない種々の事務作業に携わっておられる現世話人の皆様、フォーラムへの惜しみない種々の参加を下された皆様に、前年度世話人として、深甚の感謝を表します。

そして、本書を手にとられた方にとって、本書が哲学の営みを開く新たな好機とならんことを。

2007年2月7日
2006年度世話人総務担当
三河 隆之